

平成 27 年度 事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人理想教育財団

平成 27 年度実施事業の内容

【A】調査・研究事業（65,889,396 円）

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究（2,571,894 円）

1. 福島県郡山市教育委員会研修センター主催の学級力向上支援事業において、講師の田中博之先生（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）を支援した。出席者 200 名（5 月 7 日）
2. 仙台市教育センター主催の土曜講座に、講師として田中博之先生を派遣した。「言葉の力を育てる活用学習のあり方」出席者 30 名（6 月 20 日）
3. 名古屋市教育センター主催の学校運営研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。「言語活動を活かした授業づくりと学校経営」出席者 320 名（6 月 24 日）
4. 宮城県多賀城市教育委員会主催の平成 27 年度第 2 回初任者・講師等対象研修会に、講師として宮前嘉則先生（桐生市立清流中学校）を派遣した。出席者 27 名（8 月 6 日）
5. 宮城県利府町小中学校教育研修会において、講師の田中博之先生を支援した。「学級力を高める授業づくり・集団づくり」出席者 230 名（8 月 20 日）
6. 京都市小学校教育研究会の青年教員研修会に、講師として田中博之先生を派遣した。「子どもの学力向上につながる教育実践の在り方」出席者 180 名（10 月 15 日）
7. 新潟薬科大学理科教職コースの教職実践演習で通信づくり講習会を開催、講師として吉成勝好先生（新聞教育支援センター代表）を派遣した。出席者 4 年生 20 名（11 月 6 日）
8. 広島市教育センター主催の新任学年主任研修に、講師として田中博之先生を派遣した。「一人一人を大切にしたい学級づくりを基盤とした学年経営」出席者 120 名（11 月 11 日）
9. 仙台市教育センター主催の三年次教員研修に、講師として越田清四郎先生（全国新聞教育研究協議会顧問）を派遣した。「学級通信を通じた学級づくり」参加者 174 名（1 月 28 日）

A-2 教師による自作教材の調査・研究（484,159 円）

- 2 色プリントの効果的利用に関する調査・研究のまとめとして制作した「2 色プリントの活用事例」を配布した。

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究（62,833,343 円）

はがき新聞の教育効果に関する調査・研究

学習指導要領の「言語活動の充実」を図るため、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法としてはがき新聞づくりを推奨。自分が体験、経験したことを単に新聞としてまとめるだけでなく、「単元を貫く言語活動」を位置づけるものとして各学年の教科書にある物語文の読解力を育むためにはがき新聞を活用する授業を提案した。小学校では、「おおきなかぶ」1 年、「お手紙」2 年、「モチモチの木」3 年、「ごんぎつね」4 年、「大造じいさんとガン」5 年、「やまなし」「海の命」6 年、中学校では「少年の日の思い出」1

年、「走れメロス」2年、「故郷」3年の単元を選定した。

今年度のはがき新聞助成状況

【A】プリンター付助成校は、今年度受付数 59 校（小-33、中-23、高大-3）、3 月末現在の登録校総数は、343 校（小-217、中-114、高大-12）

【B】原稿用紙等の助成校は、今年度受付数 389 校（小-243、中-132、高大-14）、3 月末現在の登録校総数は、715 校（小-461、中-231、高大-23）

【A+B 合計】はがき新聞助成校総数は 1,058 校となった（全国の小学校 20,601 校、中学校 10,484 校、計 31,085 校とすると、はがき新聞実践校率は 3.4%）。

その実践研究の成果の一部は、実践レポートとして機関誌「季刊理想」に掲載した。

<主な活動内容>

1. はがき新聞研究会活動

①平成 26 年度実施した「ごんぎつね」（小 4 年）と「少年の日の思い出」（中 1 年）の実践事例を評価すると共に、実践事例集を作成し配布した。

②読書推奨の実践事例として「読書のすすめ」中学校編を作成した。

③朝日新聞社が運営するウェブサイト「朝日 Teachers' メール」に、はがき新聞づくりの教育効果や実践例を紹介した。

④新しい助成金を企画しアイテム数を増やし、先生方の実践研究を支援した。

2. はがき新聞の教育効果について研究委託

①研究テーマ：コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究—「言語活動の充実」へ向けての「はがき新聞」等の利用について—

研究委託：森山卓郎先生（早稲田大学文学学術院教授）

研究目的：はがき新聞をコンパクトテキスト産出の取組として位置づけ、学校教育の様々な局面において如何に応用できるかを考えるとともに、その効果を測定する。

委託研究期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

本年は、小・中学校を対象に「要約力・読解力」向上を目的とした「ことばのアンケート」調査を実施した。本調査研究は、はがき新聞研究会と連携して実施した。また、実践事例集として森山卓郎先生編集の「一書けない子も書けるようになる—コンパクトに書く国語科授業モデル」が刊行された。

②研究テーマ：子どもがはがき新聞を通して、学級力向上プロセスを報告する授業方法の解明（学級力向上プロジェクト）

研究委託：田中博之先生（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

研究目的：小・中学校における学級経営の新しい方法として、児童・生徒が自らの学級力向上の取組みについて、はがき新聞を作成・発行する力を育てる授業のあり方を明らかにする

ことをねらいとする。

実施期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

学級力向上研究会の中部地区研究会が新たに発足し、研究会を 12 月 12 日、発表会を 1 月 30 日に開催し支援した。

また、全国の学級力向上プロジェクトの実践者を一同に会した「学級力向上研究会（全国大会）」を開催した。

開催日時：平成 28 年 3 月 26 日（土） 午後 1 時 00 分～6 時 00 分

会場：ベルサール八重洲（東京都中央区八重洲 1-3-7）出席者：54 名

プログラム

【記念講演】講師：杉田洋先生（國學院大學教授） 演題：「特別活動におけるこれからの学級づくり」

【基調提案】田中博之先生（早稲田大学教授）と 3 名の実践者による研究発表、グループ別セッションと事例報告があった。

3. 教育フォーラムの開催

第 3 回「理想教育財団教育フォーラム」

開催日時：平成 27 年 8 月 30 日（日） 午後 1 時 00 分～5 時 30 分

会場：大阪第一ホテル(大阪市北区梅田 1-9-20)

プログラム 1【基調講演】

講師：水戸部修治先生（文部科学省初等中等教育局教科調査官）

演題：「単元を貫く言語活動とはがき新聞—アクティブ・ラーニングを具体化した授業のあり方—」

プログラム 2【シンポジウム】

テーマ：「言語活動の充実へむけて—はがき新聞などのコンパクトテキストの利用—」

講演者：水戸部修治先生（文部科学省）、細川太輔先生（東京学芸大学講師）達富洋二先生（佐賀大学教授）、徳永加代先生（大阪府小学校国語科教育研究会副会長）

司会者：森山卓郎先生（早稲田大学教授）

参加希望者は事前申込制とし、出席者は 230 名で会場は満席となった。

第 4 回「理想教育財団教育フォーラム」

開催日時：平成 28 年 1 月 24 日（日） 午後 1 時 00 分～5 時 40 分

会場：時事通信ホール（東京都中央区銀座 5-15-8）

第 1 部【特別講演】

講師：田村学先生（文部科学省初等中等教育局視学官）

演題：「学習指導要領改訂の方向性—アクティブ・ラーニングとは—」

第2部【基調講演とシンポジウム】

講師：富山哲也先生（十文字学園女子大学教授）

演題：「言語活動をアクティブに展開するには—はがき新聞の活用を考慮して—」

シンポジウム「はがき新聞の実践とアクティブな学び」

講演者：杉本生美先生（市川市教育センター指導主事）、宮前嘉則先生（桐生市立清流中学校教諭）、達富洋二先生（佐賀大学教授）

司会者：森山卓郎先生（早稲田大学教授）

参加希望者は事前申込制とし、出席者は250名で会場は満席となった。アンケートの回収は148件で満足度の高い評価を頂いた。

4. その他（講習会・研修会等）

①フェリス女学院大学文学部3年生 情報センター教職課程の協働学習の授業として「壁新聞づくり」を実施、講師として吉成勝好先生を派遣した。出席者39名（6月10日）

②宮古島市立福嶺小学校の授業研究会「分かる・できる授業づくり—はがき新聞を活用した授業において—」に森山卓郎先生を派遣した。出席者15名（6月15日）

③広島市教育センター主催の土曜特別セミナーに、講師として宮前嘉則先生を派遣した。「はがき新聞をつくろう」出席者24名（6月20日）

④筑波大学芸術学群の教職論I講座 芸術専攻1年生対象のはがき新聞づくり授業に、講師として羽賀絹恵先生を派遣した。出席者48名（7月19日）

⑤第53回小中学生記者の文化財取材コンクール（公益財団法人京都古文化保存協会主催）を後援、はがき新聞の部において理想教育財団賞を授与した。出席者100名（11月11日）

⑥東洋大学文学部教育学科の教職実践演習ではがき新聞づくりと学級通信づくり授業に、講師として吉成勝好先生を派遣した。出席者4年生40名（11月23日・30日）

⑦聖徳大学通信教育部の教職実践演習ではがき新聞づくり授業に、講師として羽賀絹恵先生（帝京大学教職大学院在籍）を派遣した。出席者9名（12月23日）

⑧西九州大学こども学部ではがき新聞づくり授業を支援した。「今年度の児童教育授業の総括」1年生AB組80名（1月19日）

⑨高知市立城西中学校の校内研修会に、講師として川口加代子先生（高知市指導教員）を派遣した。「はがき新聞の活用に関する研修会」出席者30名（3月18日）

【B】情報提供事業（21,070,367円）

B-1 教育関連出版物の刊行（2,525,473円）

通信づくり等に役立つ「通信づくりハンドブック」の改訂作業に取り掛かった。刊行は来期の予定。

B－2 研究情報誌の発行（13,642,685 円）

機関誌「季刊理想」の発行

海外からのお便りとして、プラハ日本人学校、サンジェルマン・アン・レイ補習授業校を掲載した。掲載記事の充実を図る為、国語科以外の教科に関する記事を掲載した。

B－3 ホームページの運用（4,902,209 円）

財団事業を詳細かつタイムリーな報告をするよう改善し、通信づくり、はがき新聞の活用事例等の掲載を充実させた。

(参考)平成 28 年 3 月度アクセス状況

月間訪問者数 13,975 人 (昨年対比+25.16%)、ページビュー数 41,911 件 (昨年対比+15.3%)。「はがき新聞をつくろう」「通信タイトルアイディアバンク」へのアクセスが多い。

【C】助成・顕彰事業（45,093,315 円）

C－1 後援・支援事業（6,485,996 円）

1. 「書」教育の推進策として、第 23 回「臨書と自由書作品展」を共催した。

主催：児童の書を考える会 代表 高橋里江氏

会場：東京芸術劇場 5 階ギャラリー 開催日：10 月 1 日～4 日

テーマ：「紙と話す」 展示作品点数：105 点 総入場者数：844 名

学生展コンクールとして、東京都教育委員会賞 5 点、理想教育財団賞 13 点を授与した。

2. 横浜市立学校総合文化祭に協賛、ポスター制作等の支援をした。

3. 広島市における文化芸術教育の充実に関する事業「文化の祭典」に対し、広報用チラシ制作の支援をした。

C－2 新聞教育の普及・振興（3,982,429 円）

1. 東京都小学校新聞教育研究会主催「春の学習新聞づくり」講習会にて、講師の堀口友紀先生(墨田区立小梅小学校)を支援した。「はがき新聞をつくろう」出席者 33 名 (4 月 18 日)

2. 東京都中学校新聞教育研究会主催の指導者講習会にて、講師の田村俊雄先生(新宿区立四谷中学校)を支援した。「はがき新聞制作」出席者 20 名 (5 月 30 日)

3. 岩手県釜石大槌新聞教育研究協議会主催の研修会に、講師として高橋和江先生(奥州市立人首小学校)、渡邊真龍先生を派遣した。「新聞教育活動と言語活動の充実について」「はがき新聞実習」出席者 27 名 (7 月 7 日)

4. 第 58 回全国新聞教育研究大会京都大会(主催:全国新聞教育研究協議会他)を後援した。出席者約 200 名 (8 月 3 日)

会場：京都光華中学校・高等学校 (京都市右京区)

テーマ：「人を育て、心をつなぐ新聞教育～書く力をはぐくむ新聞教育の追究～」

午前中に開催された講習会「親子ではがき新聞づくり」の講師として、中島順子先生(大阪市立開平小学校)を派遣した。午後開催の分科会「小学校新聞づくり」で、河野由佳先生(京都市立洛中小学校)よりはがき新聞の実践報告があり、中島順子先生が指導助言を行った。

5. 茨城県新聞教育研究協議会のNIEセミナーに、講師として堀口友紀先生を派遣した。「はがき新聞を使った授業づくり」出席者16名(8月21日)

6. 神奈川県私立小学校の新聞教育研究会主催「第49回まめ記者講習会」宮城県石巻市開催に対し、印刷機と関連消耗品の支援をした。出席者4年～6年生 86名(8月3日～6日)

7. 岩手県新聞教育研究協議会主催の教職員を対象にした「はがき新聞づくり講習会」講師：高橋和江先生を支援した。出席者32名(8月3日)

8. 山形県新聞教育研究会主催の「はがき新聞づくりワークショップ」講師の齋藤真結美先生(酒田市立松原小学校)を支援した。出席者30名(8月7日)

9. 東京都小学校新聞教育研究会主催「学習新聞づくり指導者実技講習会」講師の堀口友紀先生のはがき新聞づくり講習を支援した。出席者21名(9月5日)

10. 平成27年度岩手県小・中学校新聞コンクール(岩手県新聞教育研究協議会主催)を支援、はがき新聞の部において理想教育財団賞を授与した。出席者約200名(12月9日)

11. 第50回北九州市小・中・特別支援学校新聞コンクール(北九州市新聞教育研究会主催)を後援、理想教育財団賞を授与した。出席者100名(2月20日)

12. 第42回東京都小・中学校新聞コンクールを後援、入賞作品集制作等を支援した。(2月27日)

13. 第65回全国小・中学校・PTA新聞コンクールを後援した。(3月5日)

C-3 日本人学校等への支援・助成 (1,563,384円)

海外日本人学校等への児童図書寄贈

海外日本人学校(補習授業校を含む)10校に対し日本の図書を寄贈した。公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により実施。

[寄贈先]

ジャカルタ日本人学校(インドネシア)、中部テネシー日本語補習校(アメリカ)、プノンペン日本人学校(カンボジア)、プラハ日本人学校(チェコ)、トロント補習授業校(カナダ)、ミラノ補習授業校(イタリア)、アムステルダム補習授業校(オランダ)、ストックホルム補習授業校(スウェーデン)、ヘルシンキ補習授業校(フィンランド)、サンジェルマン・アン・レイ補習授業校(フランス)

C-4 コンクールの開催・顕彰 (33,061,506円)

第11回「プリントコミュニケーションひろば」の応募数は、小学校295作品、中学校290作品、高校17作品、その他4作品、合計606作品であった。

一次審査会は、4月11日(小学校の部)、4月25日(中学校・高校の部)に開催し、上位賞候補作品を選抜、5月22日最終審査会を開催し各賞を選定した。

今年度の最優秀賞・理想教育財団賞には、川崎市立橋高等学校定時制中島克己先生のクラブ通信「橋定スポーツ Baseball」を選定。写真を有効に活用し分かり易いレイアウトと効果的な記事がバランスよく掲載され、通信として大変説得力ある作品と高く評価された。

7月3日、審査員代表として富安敬二先生、吉成勝好先生と酒井専務理事が橋高等学校を訪問し最優秀賞・理想教育財団賞を授与した。

また、第12回「プリントコミュニケーションひろば」の作品募集を開始し、平成28年1月2日～3月31日まで応募を受付けた。

プリントコミュニケーションひろばの過去11年を総括すると、学校における通信活動の役割と価値観が変化してきていることが判明した。通信活動の実態調査が必要と判断し、「学校における通信活動の教育効果について—これからの通信活動のあるべき姿は—」をテーマに調査研究を実施する事とした。研究責任者として富安敬二先生(立教大学名誉教授)に依頼し、本調査研究のプロジェクトを発足した。

【東日本大震災支援追加事業】

3・11被災校への図書・教材の寄贈を実施した。

寄贈先は、先に実施した被災校から漏れていた福島県双葉郡の学校とした。

福島県川内村教育委員会 教育長 秋元正先生 小-1、中-1、計2校 寄贈式7月16日

福島県双葉町教育委員会 教育長 半谷淳先生 小-2、中-1、計3校 寄贈式9月18日

福島県立ふたば未来学園高等学校 校長 丹野純一先生

福島県川俣町教育委員会 教育長 神田紀先生 小-6、中-2、計8校 寄贈式10月13日

その他の事項

会議の開催

①理事会・評議員会

第19回理事会 5月27日

第20回理事会 6月15日(決議の省略による)

第5回定時評議員会 6月29日

第21回理事会 11月25日

臨時評議員会 12月11日(決議の省略による)

第22回理事会 3月24日

②はがき新聞研究会

はがき新聞研究会（関東部会） 8月8日

はがき新聞研究会（関西部会） 8月29日

はがき新聞研究会（関東関西合同会議） 1月23日

はがき新聞研究会（東京部会） 3月7日

③通信の教育効果等調査研究会議

第1回 8月18日

第2回 9月29日

第3回 10月21日

第4回 12月3日

第5回 1月12日

第6回 2月16日

第7回 3月17日

④プリントコミュニケーションひろば関係

最終審査員会議 10月30日

以上